平成28年度用中学校英語教科書【内容解説資料】

SUNSHINE ENGLISH COURSEは，多くの現場の先生方の声に支えられ，
著者の先生方の真剣な教育への思いをこめて作られました。

監　修　松畑熙一　中国学園大学・中国短期大学学長

著作者
アダチ徹子　宮崎大学准教授
板垣信哉　宮城教育大学教授
上原景子　群馬大学教授
卯城祐司　筑波大学教授
胡子美由紀　広島県広島市立井口中学校教諭
大牛英則　比治山大学准教授
大城　賢　琉球大学教授
大塚謙二　北海道壮瞥町立壮瞥中学校教諭
大場浩正　上越教育大学教授
北原延晃　前東京都港区立赤坂中学校教諭
久保野雅史　神奈川大学准教授
佐久間康之　福島大学教授
佐々木雅子　秋田大学教授
佐藤　寧　明治学院大学名誉教授
島谷　浩　熊本大学教授
白畑知彦　静岡大学教授
髙塚成信　岡山大学教授
高梨芳郎　福岡教育大学名誉教授
竹中龍範　香川大学教授
田村岳充　宇都宮大学附属中学校教諭
中嶋洋一　関西外国語大学教授
新里眞男　関西外国語大学教授
西垣知佳子　千葉大学教授
樋口晶彦　鹿児島大学教授
深澤清治　広島大学教授
深澤　真　琉球大学准教授
吉武正樹　福岡教育大学准教授
萬谷隆一　北海道教育大学教授
渡辺浩行　宇都宮大学教授
根本アリソン　宮城教育大学特任准教授
安井マイケル　首都大学東京准教授
Tara Cannon　横浜国立大学准教授
Nevitt Reagan　関西外国語大学教授

開隆堂出版株式会社編集部

開隆堂出版株式会社
KAIRYUDO
http://www.kairyudo.co.jp

平成28教　内容解説資料

■本　　社　〒113-8608　東京都文京区向丘1−13−1　TEL. 03-5684-6111
●北海道支社　〒060-0061　札幌市中央区南一条西6丁目11番地　札幌北辰ビル8階　TEL. 011-231-0403
●東 北 支 社　〒983-0043　仙台市宮城野区萩野町1−11−1　萩野町Mビル2階　TEL. 022-782-8511
●名古屋支社　〒464-0802　名古屋市千種区星が丘元町14−4　星ヶ丘プラザビル6階　TEL. 052-789-1741
●大 阪 支 社　〒550-0013　大阪市西区新町2−10−16　TEL. 06-6531-5782
●九 州 支 社　〒810-0075　福岡市中央区港2−1−5　FYCビル3階　TEL. 092-733-0174

文部科学省検定済教科書　中学校外国語科用　9　開隆堂　英語728·828·928

Sunshine

SUNSHINE ENGLISH COURSE

平成28年度用
中学校英語教科書
内容案内

●この教科書は，これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ，税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。
●この教科書は，カラーユニバーサルデザインに配慮して編集しています。また，環境に配慮した用紙やインキを使用しています。

KAIRYUDO

自律的学習者を育てる教科書

新しい*SUNSHINE ENGLISH COURSE*をお届けします。今回，私たちは，生徒たちに自律的学習者になってほしいと願い，この教科書の改訂にあたりました。それは，日々の学習の中で英語の学び方を知り，自分の目標に向かって主体的に学習を進めることができるようになることがいちばん大切だと考えるからです。各課（Program）の構成，My Projectを通した総合的・統合的な英語の活用，さらにPOWER-UPなどを通して，生徒は自然に英語の学び方を修得できるでしょう。

*SUNSHINE*の最大の特長は，やはり**My Project**にあります。**「3年間を見通した到達目標」**を掲げている点，**「総合的・統合的な英語活用の場面」**が設定されているなどの特長はこれまでの*SUNSHINE*からしっかり受け継がれています。今回の改訂では，生徒の活発な学習を促すよう，**協働学習や自己評価の機会**を全学年に設けました。さらに，各活動段階や順序を見直し，ステップを細かくして取り組みやすくしました。3年間で9つのProject を経験することで，コミュニケーション能力をしっかり身につけるとともに，その成功体験により**成就感，自己肯定感も育むことができる**と確信しています。

もちろん，日常の学習を支えるには**英文の内容が生徒にとって興味深い**ものでなければなりません。この点でも今回さらに新しい題材を用意しました。3年で扱う**ノーベル平和賞受賞者となったマララさん**の主張は同世代の中学生にとって強いインパクトを与えるでしょう。2年で扱う**トルコのエルトゥールル号にまつわる話**も国際交流・貢献，相互援助など現代的な課題を考える際の貴重な視点を提供してくれます。さらに，2年で扱う**英語落語**は，単に読んで理解できることだけでなく，実際に英語で落語を演じてみることで，落語のもつ日本文化としての特徴，演じることの楽しさと難しさを体感できる題材であると思います。

そのほか，**POWER-UP**は整理・統合し，精選しました。例えば，インタビュー活動から学校新聞のための記事を作る（2年）など，**2つ以上の技能を統合的に活用する活動**を設けました。これにより，実際のコミュニケーション場面に一層対応した活動を設けることができたと考えています。

今注目されている**Can-Doリスト**による授業計画・運営に対する配慮もしました。各学年の巻末に**3年間を見通したCan-Do リストのサンプル**を掲げてあります。これを参考にして，My Projectの学習事項を中心に，各学校や地域の特性に応じたCan-Doリストを作っていただきたいと思います。

新しい*SUNSHINE*で学ぶ生徒たちが毎日の学習に喜びを感じながら，自律的学習者への道を歩んでいってくれることを著者一同強く願っております。

著者代表
新里眞男
（関西外国語大学教授）

すべての生徒に「確かな学力をつける」特に「基礎学力の底上げができる」と定評のある教科書です。

目次

編集の基本方針 …… 2

教科書の特色

到達目標が見える！ 3年間を見通したMy Project …… 4
「できるようになること」が見える！ 3年間を見すえたCan-Doリスト …… 6
指導の手順が見える教えやすい教科書 …… 8
学びやすさ・教えやすさの工夫 …… 10
小学校外国語活動とスムーズに接続する入門期 …… 14
4技能の統合を実現するPOWER-UPとMy Project …… 16

題材の特色

生徒が「自分の立場で考えられる」題材 …… 18
環境問題・異文化相互理解 …… 20
日本を知り，日本文化を発信する …… 22
生徒の豊かな心を育てる題材 …… 24

充実の辞書指導，語彙指導 …… 26
高校入試を意識した多読用教材 …… 27
コミュニケーション活動を活発にする豊富な巻末資料 …… 28
SUNSHINE DATA …… 30
授業を支える圧倒的な指導資料・教材群 …… 31
選定のチェックポイント …… 32

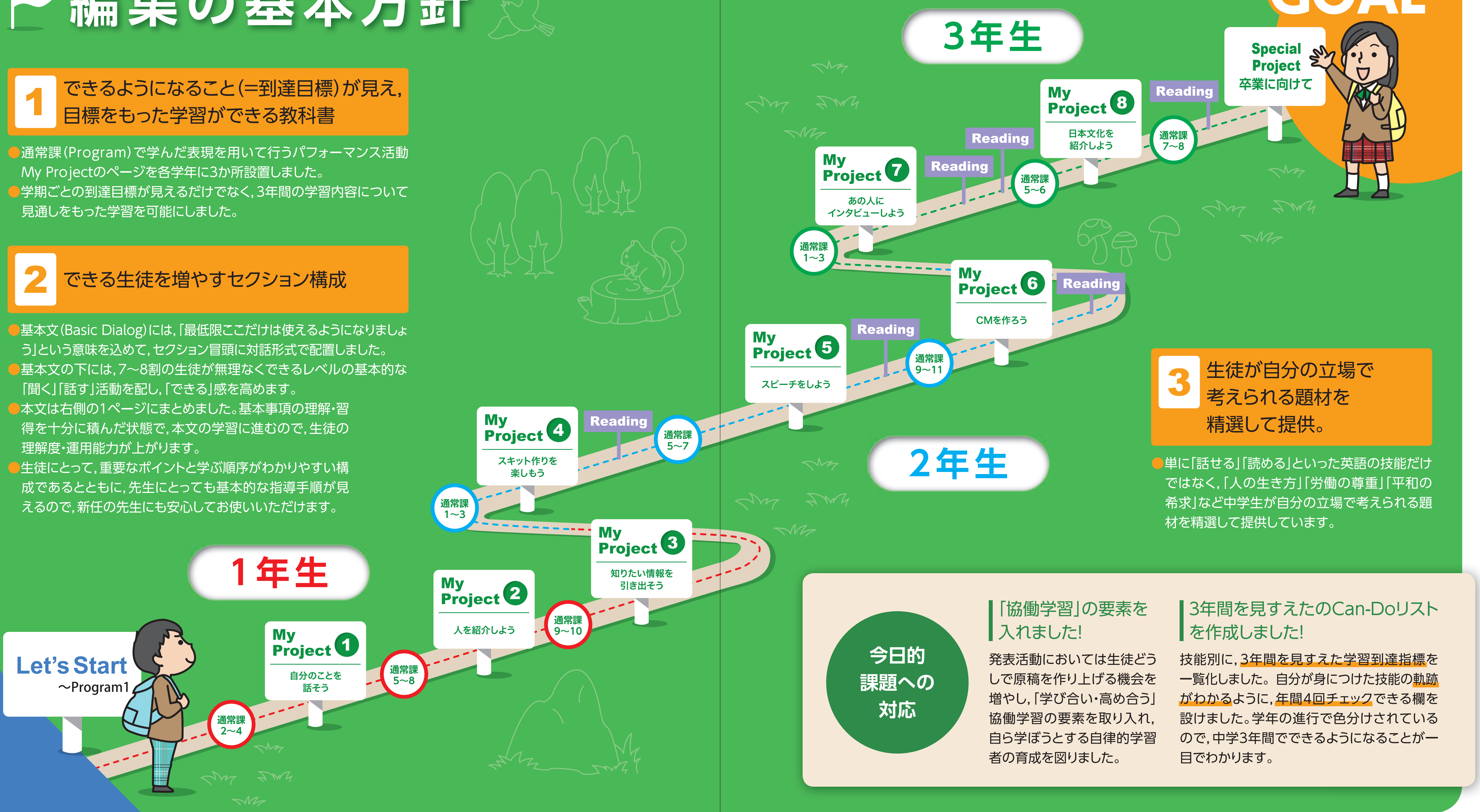
編集の基本方針

1 できるようになること(=到達目標)が見え，目標をもった学習ができる教科書

●通常課(Program)で学んだ表現を用いて行うパフォーマンス活動My Projectのページを各学年に3か所設置しました。
●学期ごとの到達目標が見えるだけでなく，3年間の学習内容について見通しをもった学習を可能にしました。

2 できる生徒を増やすセクション構成

●基本文(Basic Dialog)には，「最低限ここだけは使えるようになりましょう」という意味を込めて，セクション冒頭に対話形式で配置しました。
●基本文の下には，7～8割の生徒が無理なくできるレベルの基本的な「聞く」「話す」活動を配し，「できる」感を高めます。
●本文は右側の1ページにまとめました。基本事項の理解・習得を十分に積んだ状態で，本文の学習に進むので，生徒の理解度・運用能力が上がります。
●生徒にとって，重要なポイントと学ぶ順序がわかりやすい構成であるとともに，先生にとっても基本的な指導手順が見えるので，新任の先生にも安心してお使いいただけます。



3 生徒が自分の立場で考えられる題材を精選して提供。

●単に「話せる」「読める」といった英語の技能だけではなく，「人の生き方」「労働の尊重」「平和の希求」など中学生が自分の立場で考えられる題材を精選して提供しています。

今日的課題への対応

「協働学習」の要素を入れました!

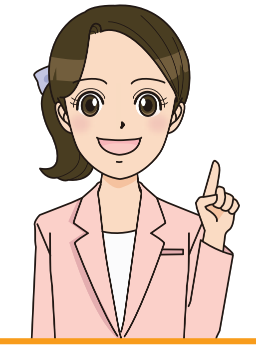
発表活動においては生徒どうしで原稿を作り上げる機会を増やし，「学び合い・高め合う」協働学習の要素を取り入れ，自ら学ぼうとする自律的学習者の育成を図りました。

3年間を見すえたのCan-Doリストを作成しました!

技能別に，3年間を見すえた学習到達指標を一覧化しました。自分が身につけた技能の軌跡がわかるように，年間4回チェックできる欄を設けました。学年の進行で色分けされているので，中学3年間でできるようになることが一目でわかります。

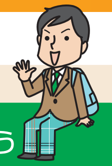
ココに注目!!

到達目標が見える! 3年間を見通した My Project



- 複数の技能を組み合わせた**統合的な言語活動**ができます。
- 生徒が自分で**「問題解決」**しながら,**「協働学習」**できる構成です。
- **スモール・ステップ**を積み重ねながら,文と文のつながりのあるまとまった文章が書けるようになります。
- 既習事項を必然的に見直す**くり返し学習**ができます。

My Project 一覧

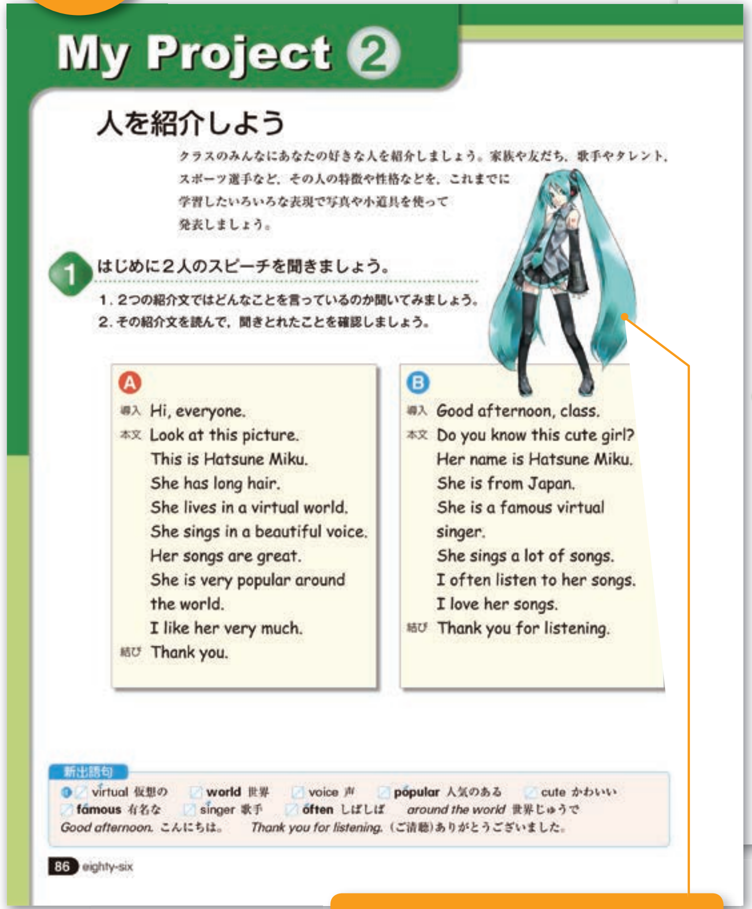


3年 Special Project 卒業に向けて ― 思いを伝えよう
⑦あの人にインタビューしたい ⑧日本文化を紹介しよう

2年 ④スキットを作り楽しもう ⑤スピーチをしよう ― こんな人になりたい
⑥CMを作ろう ― こんなものがほしい

1年 ①自分のことを話そう ②人を紹介しよう
③知りたい情報を引き出そう

STEP 1 モデルの提示 (聞く・読む)


My Project 2
人を紹介しよう
クラスのみんなにあなたの好きな人を紹介しましょう。家族や友だち、歌手やタレント、スポーツ選手など、その人の特徴や性格などを、これまでに学習したいろいろな表現で写真や小道具を使って発表しましょう。
1 はじめに2人のスピーチを聞きましょう。
1. 2つの紹介文ではどんなことを言っているのか聞いてみましょう。
2. その紹介文を読んで、聞きとれたことを確認しましょう。

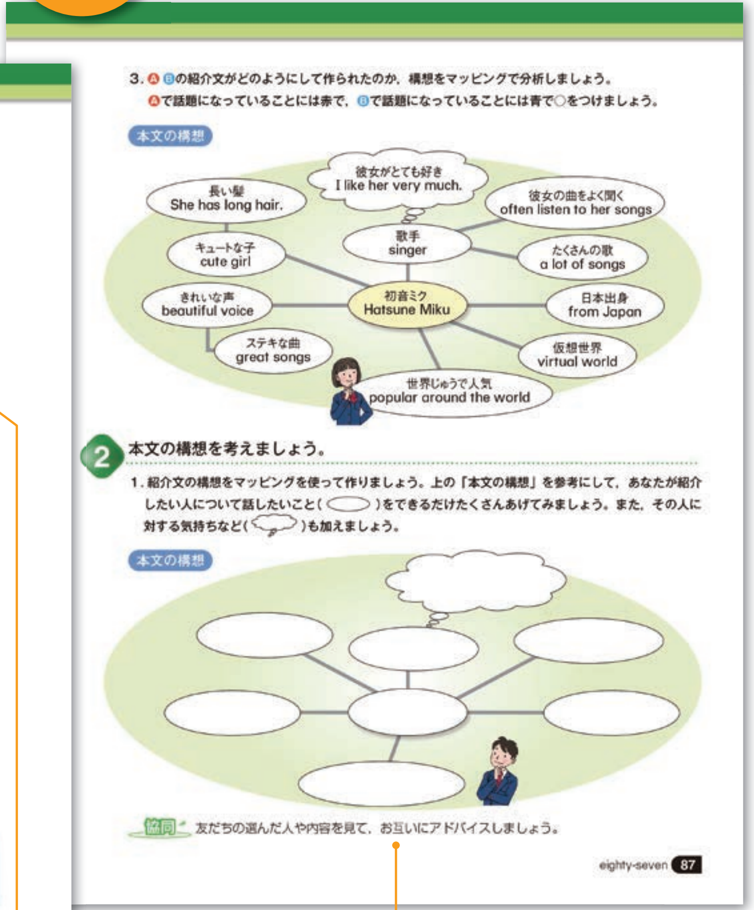
A
導入 Hi, everyone.
本文 Look at this picture.
This is Hatsune Miku.
She has long hair.
She lives in a virtual world.
She sings in a beautiful voice.
Her songs are great.
She is very popular around the world.
I like her very much.
結び Thank you.

B
導入 Good afternoon, class.
本文 Do you know this cute girl?
Her name is Hatsune Miku.
She is from Japan.
She is a famous virtual singer.
She sings a lot of songs.
I often listen to her songs.
I love her songs.
結び Thank you for listening.

新出語句
virtual 仮想の　world 世界　voice 声　popular 人気のある　cute かわいい
famous 有名な　singer 歌手　often しばしば　around the world 世界じゅうで
Good afternoon. こんにちは。　Thank you for listening. (ご清聴)ありがとうございました。
86 eighty-six

中学生に大人気のボーカロイド初音ミクを紹介します。

STEP 2 モデルの分析・書く準備


3. Ⓐ Ⓑの紹介文がどのようにして作られたのか、構想をマッピングで分析しましょう。
本文の構想

2 本文の構想を考えましょう。
1. 紹介文の構想をマッピングを使って作りましょう。上の「本文の構想」を参考にして、あなたが紹介したい人について話したいことをできるだけたくさんあげてみましょう。また、その人に対する気持ちなども加えましょう。
本文の構想
協同 友だちの選んだ人や内容を見て、お互いにアドバイスしましょう。
eighty-seven 87

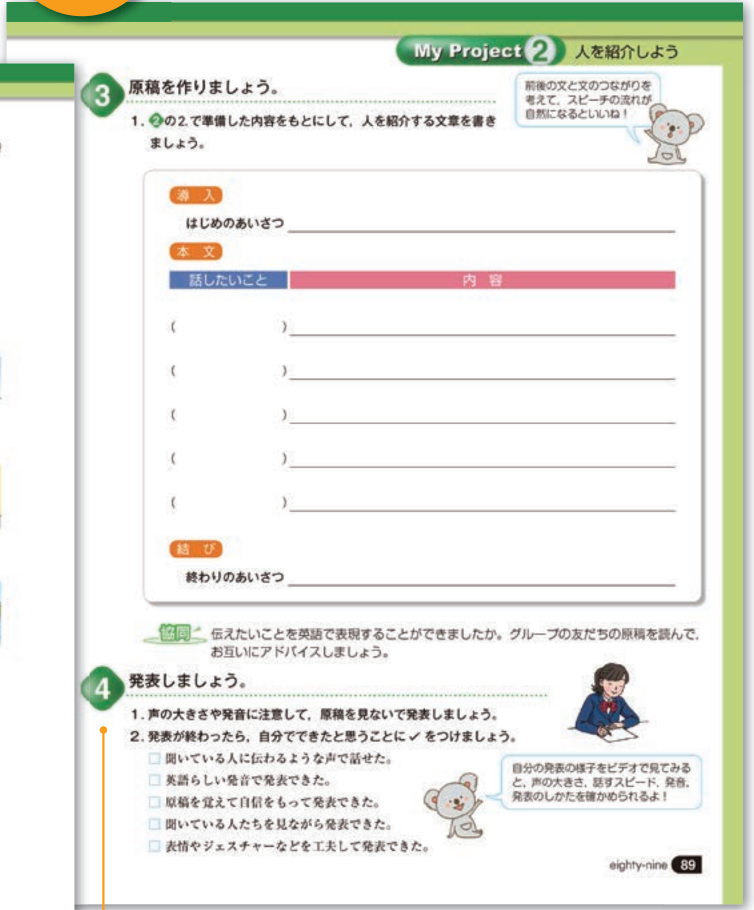
協働
ペアやグループでもとに学び合い,互いによい影響を与え合う**協働学習**を盛り込みました。

STEP 3 既習事項の見直し (書く)

2. スピーチ原稿を書く準備をしましょう。はじめに、今までに学習した人を紹介する表現を Basic Dialog からさがして書きましょう。
●紹介
This is ______. (PROGRAM 5-3)
He is [He's] ______. (PROGRAM 5-3)
She is [She's] ______. (PROGRAM 5-3)
He [She] is my ______. (PROGRAM 7-1)
参考 He [She] is a nurse.
He [She] works at a company.
●特徴
My brother [sister] ______. (PROGRAM 6-1)
He [She] doesn't ______. (PROGRAM 6-3)
参考 His [Her] hobby is cooking.
趣味: swimming 水泳 / gardening 園芸 / fishing つり / walking 散歩
参考 He [She] is kind.
人柄: active 活発な / cheerful 明るい / gentle やさしい / funny おもしろい / quiet おとなしい
●気持ち
This is my friend Miki. I ______. (PROGRAM 7-2)
This is my friend Hiroto. I ______. (PROGRAM 7-2)
参考 I respect him [her].
I really like him [her].
I love him [her].
和英辞典から使える表現をさがしてみましょう。
88 eighty-eight

(PROGRAM 5-3)
学習した箇所を示しました。すぐにもどって確認できます。
未習表現には 参考 マークをつけています。

STEP 4 自己表現とふり返り (話す)


My Project 2 人を紹介しよう
3 原稿を作りましょう。
1. 2の2.で準備した内容をもとにして、人を紹介する文章を書きましょう。
導入 はじめのあいさつ
本文 話したいこと　内容
結び 終わりのあいさつ
協同 伝えたいことを英語で表現することができましたか。グループの友だちの原稿を読んで、お互いにアドバイスしましょう。
4 発表しましょう。
1. 声の大きさや発音に注意して、原稿を見ないで発表しましょう。
2. 発表が終わったら、自分でできたと思うことに✓をつけましょう。
□ 聞いている人に伝わるような声で話せた。
□ 英語らしい発音で発表できた。
□ 原稿を覚えて自信をもって発表できた。
□ 聞いている人たちを見ながら発表できた。
□ 表情やジェスチャーなどを工夫して発表できた。
eighty-nine 89

3学年すべてのMy Project に**自己評価項目**を設けました。

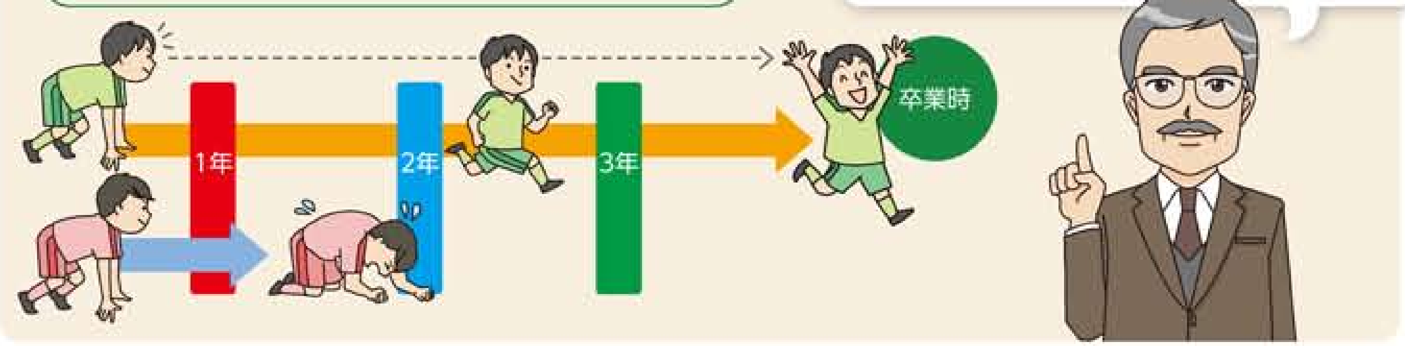
ココに注目!!

「できるようになること」が見える! 3年間を見すえた Can-Doリスト

- **3年間を通しての学習到達指標**を技能別に一覧にしました。
- 自分が身につけた技能の**軌跡がわかる**ように，**年間4回チェック**できる欄を設けました。
- 学年の**進行に応じて**，できるようになることがわかるように，**色分け**をしています。
（1年：ピンク　2年：青　3年：緑）

なぜ3年間を見すえることが大事なのか?

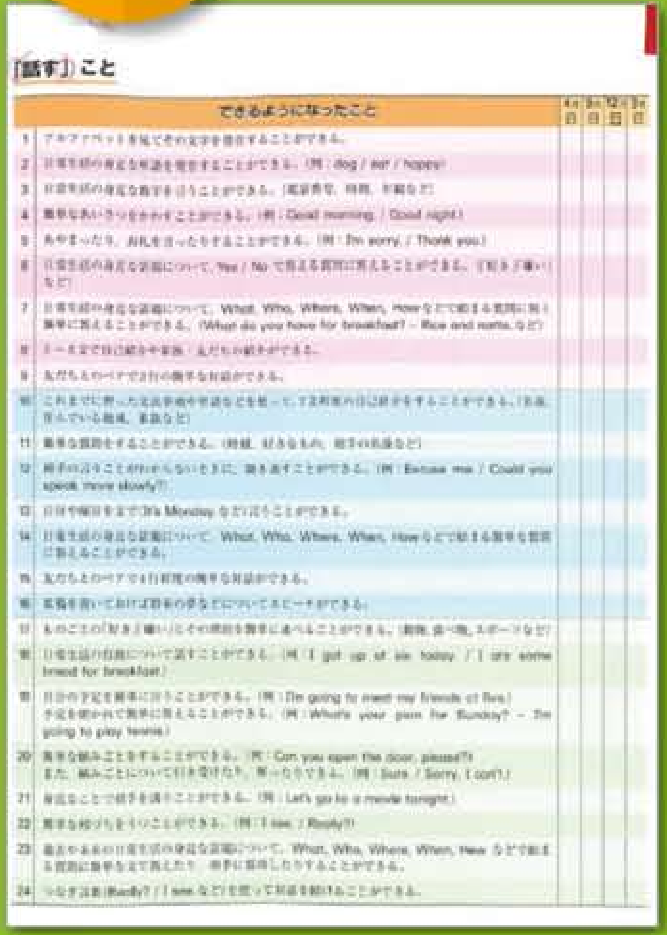
卒業時の指標が定まっていれば，各学年でどのような技能を身につければよいかも明確になります。各学年の指標だけでは，全体の距離を知らずにマラソンを走るようなものです。



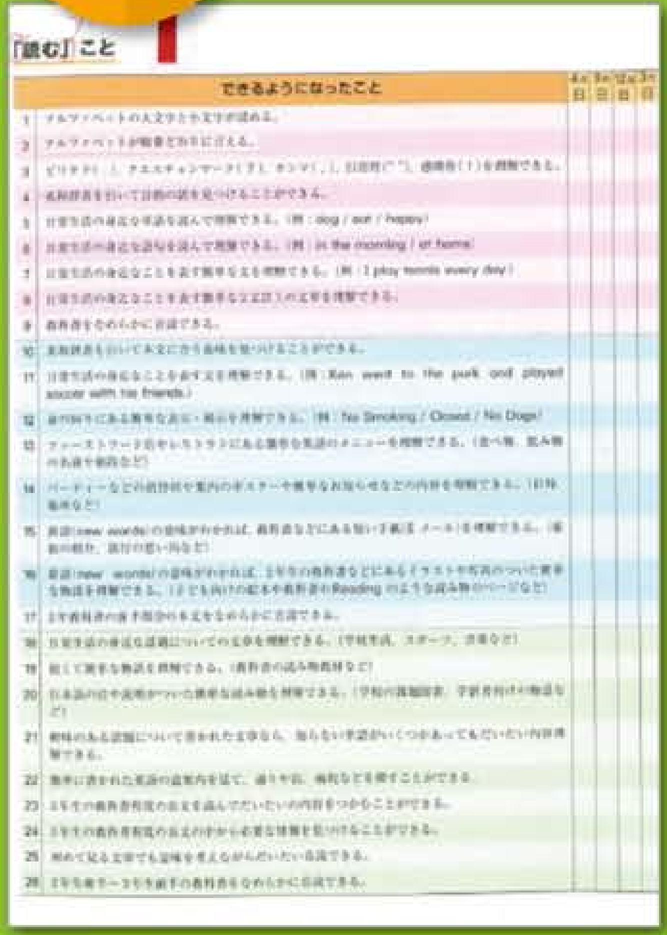
聞くこと

付録　英語で「できるようになったこと」リスト

話すこと


「話す」こと

読むこと

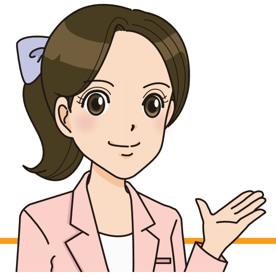

「読む」こと

書くこと

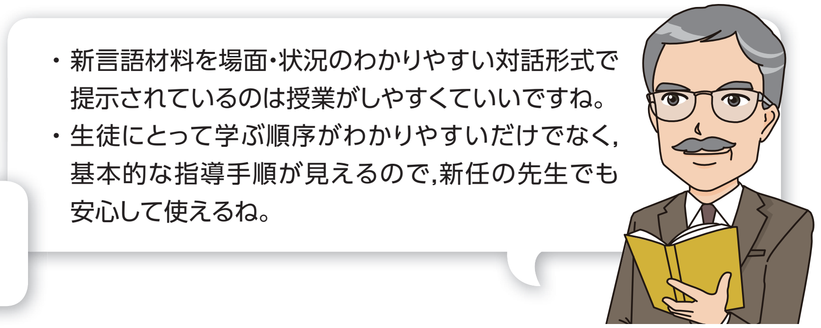
「書く」こと

ココに注目!!

指導の手順が見える教えやすい教科書



- 1セクション見開き構成の中で**4技能を総合的**に指導できます。
- 先生，生徒にとって，**指導・学習の手順がわかる構成**です。
- **まず最初に基本文**を配し，いちばん大事なことが生徒に見てわかるようにしました。



目標
このセクションの到達目標を示しました。

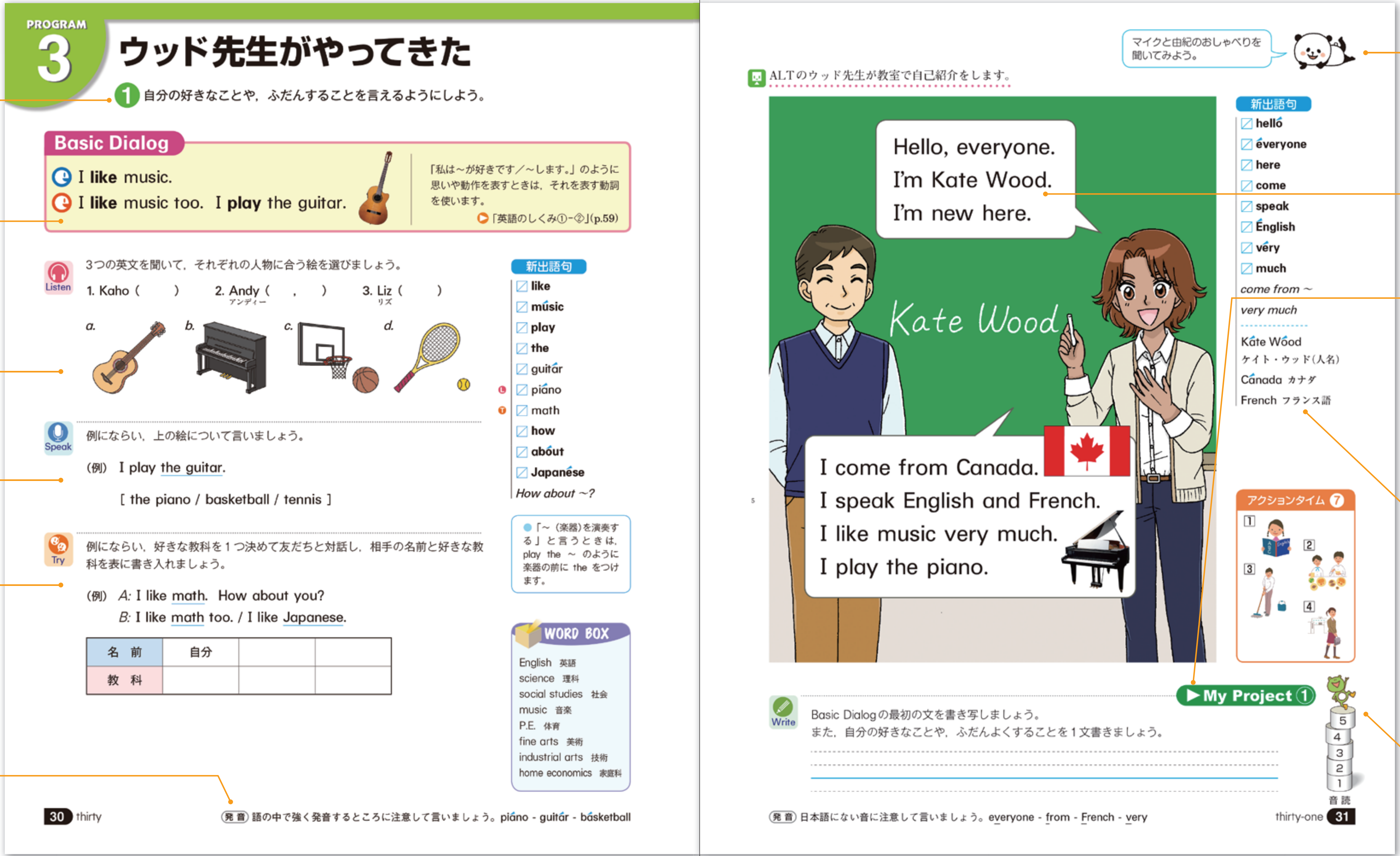
Basic Dialog
新言語材料を場面・状況のわかりやすい対話形式で提示しました。

Listen
新言語材料を聞いて，理解します。

Speak
新言語材料を口頭で練習します。

Try
新言語材料をインタラクティブに使って自己表現します。

発音とつづりの関係や音声，符号に関する事項を体系的に学びます。



PROGRAM 3 ウッド先生がやってきた

① 自分の好きなことや，ふだんすることを言えるようにしよう。

Basic Dialog

I **like** music.

I **like** music too. I **play** the guitar.

「私は～が好きです／～します。」のように思いや動作を表すときは，それを表す動詞を使います。

▶「英語のしくみ①-②」(p.59)

Listen 3つの英文を聞いて，それぞれの人物に合う絵を選びましょう。

1. Kaho (　　)　2. Andy（アンディー）(　　，　　)　3. Liz（リズ）(　　)

a.　b.　c.　d.

Speak 例にならい，上の絵について言いましょう。

(例) I play the guitar.

[the piano / basketball / tennis]

Try 例にならい，好きな教科を1つ決めて友だちと対話し，相手の名前と好きな教科を表に書き入れましょう。

(例) A: I like math. How about you?

B: I like math too. / I like Japanese.

名　前	自分		
教　科			

新出語句
like / music / play / the / guitar / piano / math / how / about / Japanese / How about ～?

●「～（楽器）を演奏する」と言うときは，play the ～ のように楽器の前に the をつけます。

WORD BOX
English 英語
science 理科
social studies 社会
music 音楽
P.E. 体育
fine arts 美術
industrial arts 技術
home economics 家庭科

30 thirty　発音 語の中で強く発音するところに注意して言いましょう。piáno - guitár - básketball

マイクと由紀のおしゃべりを聞いてみよう。

ALTのウッド先生が教室で自己紹介をします。

Hello, everyone.
I'm Kate Wood.
I'm new here.

Kate Wood

I come from Canada.
I speak English and French.
I like music very much.
I play the piano.

新出語句
hello / everyone / here / come / speak / English / very / much / come from ～ / very much

Kate Wood ケイト・ウッド(人名)
Canada カナダ
French フランス語

アクションタイム 7

▶ My Project ①

Write Basic Dialogの最初の文を書き写しましょう。
また，自分の好きなことや，ふだんよくすることを1文書きましょう。

音読 5 4 3 2 1

発音 日本語にない音に注意して言いましょう。everyone - from - French - very　thirty-one 31

本文に入る前のリスニングです。本文中のキーワードを使って本文への興味付けをはかります。

本文

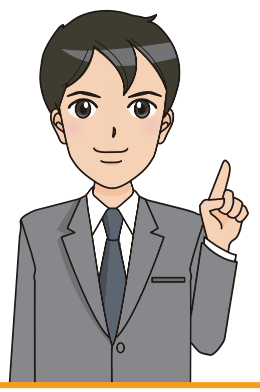
Write
学習した言語材料を「書くこと」の自己表現につなげます。
▶ My Project ① はMy Projectにつながる準備活動であることを示しています。

特に重要な語と「題材語」（固有名詞など題材内容を理解するうえで意味がわかればよい語）を区別し，メリハリの効いた学習ができるようにしました。

音読マーク
※詳しくはp.12参照

ココに注目!!

学びやすさ・教えやすさの工夫①



- 苦手な生徒が**「わかった」「できた」という達成感，成就感**を得られ，全体の学力を底上げできます。
- Basic Dialogで覚えた表現をMy Projectで活用でき，**自律的学習者を育てる**学習構成。
- 基礎・基本をていねいに扱い，学習内容が**3年間で確実に終わるように精選**されています。

●自然な対話の中で言語材料を習得します。

新しく学ぶ言語材料がもっとも自然に使える場面を設定し，対話形式で示しています。

Basic Dialog

We have a math quiz today.
Did you **study** last night?
Yes, I **did**. / No, I **didn't**.　(did not→didn't)

「～しましたか。」と過去のことをたずねるときは，Didで始めます。

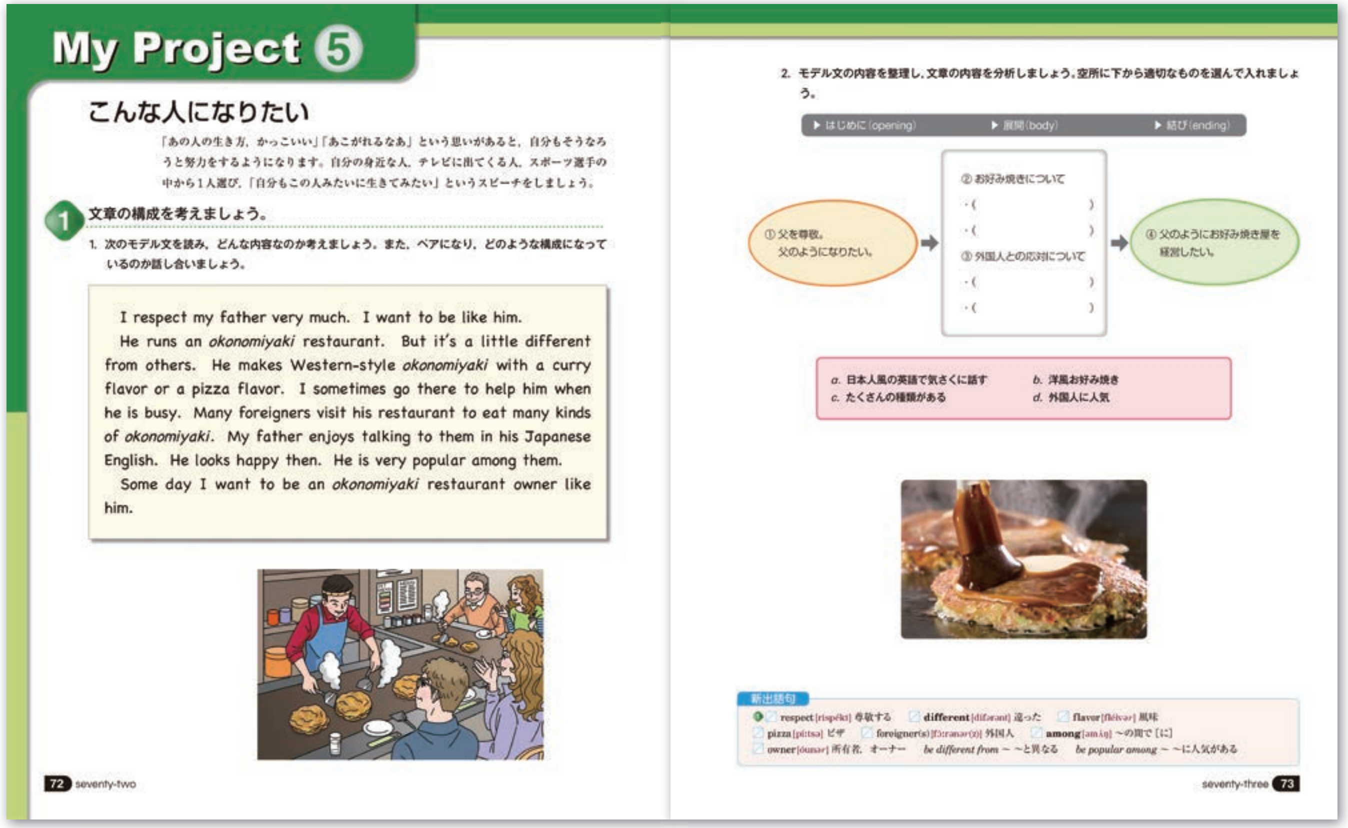
▶「英語のしくみ④-①」(p.122)

このBasic Dialogを各見開きの最初に掲げています。ここは基礎・基本のエッセンスです。これだけ使えるようになれば，中学英語の目標の半分はクリア!!
ほとんどの生徒が無理なくできるレベルに設定して，「できる」感を大切にしました。

基礎・基本の練習を十分に行うことで学力の底上げができます！

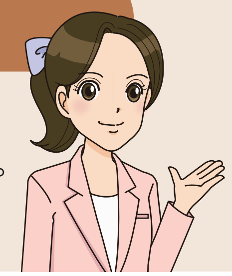
Basic Dialogで覚えた表現はMy Projectの スピーチで活用 できます。

コミュニケーションすることに喜びを感じる 自律的学習者 を育てる学習構成。



新言語材料は 3年の2学期まで

内容の精選を図り，
3年の2学期までに確実に終えられるようにしました。
3年の3学期は長文速読だけです。

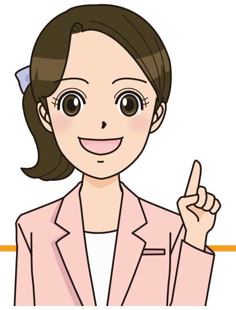


旧Sunshine	1年	160ページ
旧Sunshine	2年	160ページ
旧Sunshine	3年	160ページ

新Sunshine	1年	**本文124ページ** (全体152ページ)
新Sunshine	2年	**本文114ページ** (全体152ページ)
新Sunshine	3年	**本文96ページ** (全体144ページ)

ココに注目!!

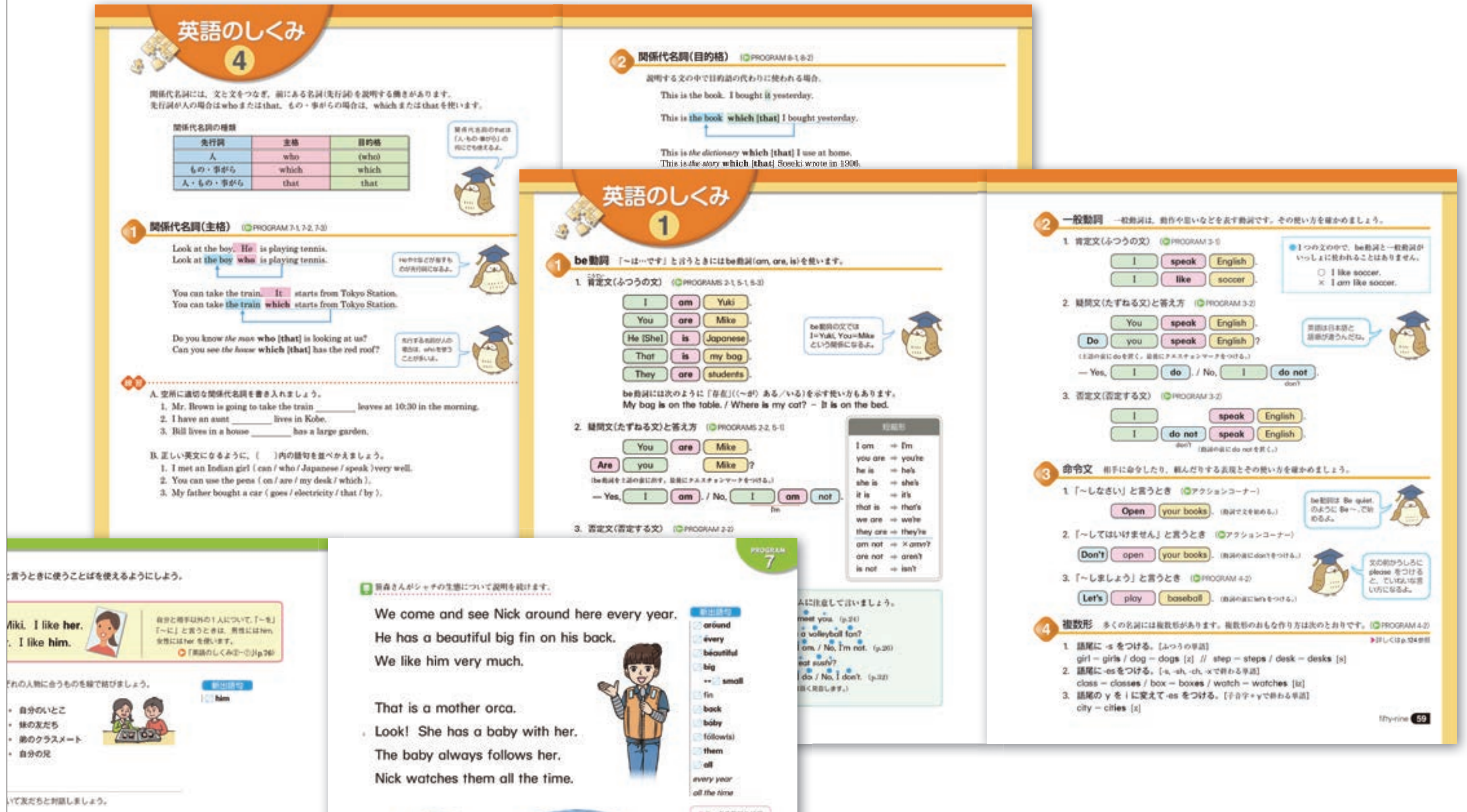
学びやすさ・教えやすさの工夫②

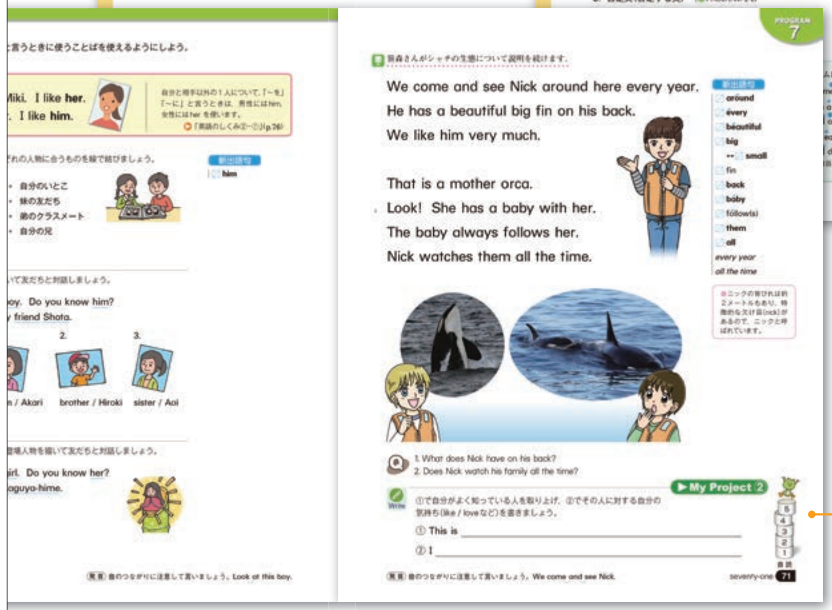


- ビジュアルな紙面で文法を視覚的にわかりやすく説明しています。
- 自学自習を促すため，音読マークをつけています。
- 学び合い，高め合う「協働学習」を意識的に取り入れました。

●ビジュアルな紙面で文法を視覚的にとらえます。

確認のための練習問題もついています。本文に戻って，立体的に学習できます。





●自学自習を促すための音読マーク

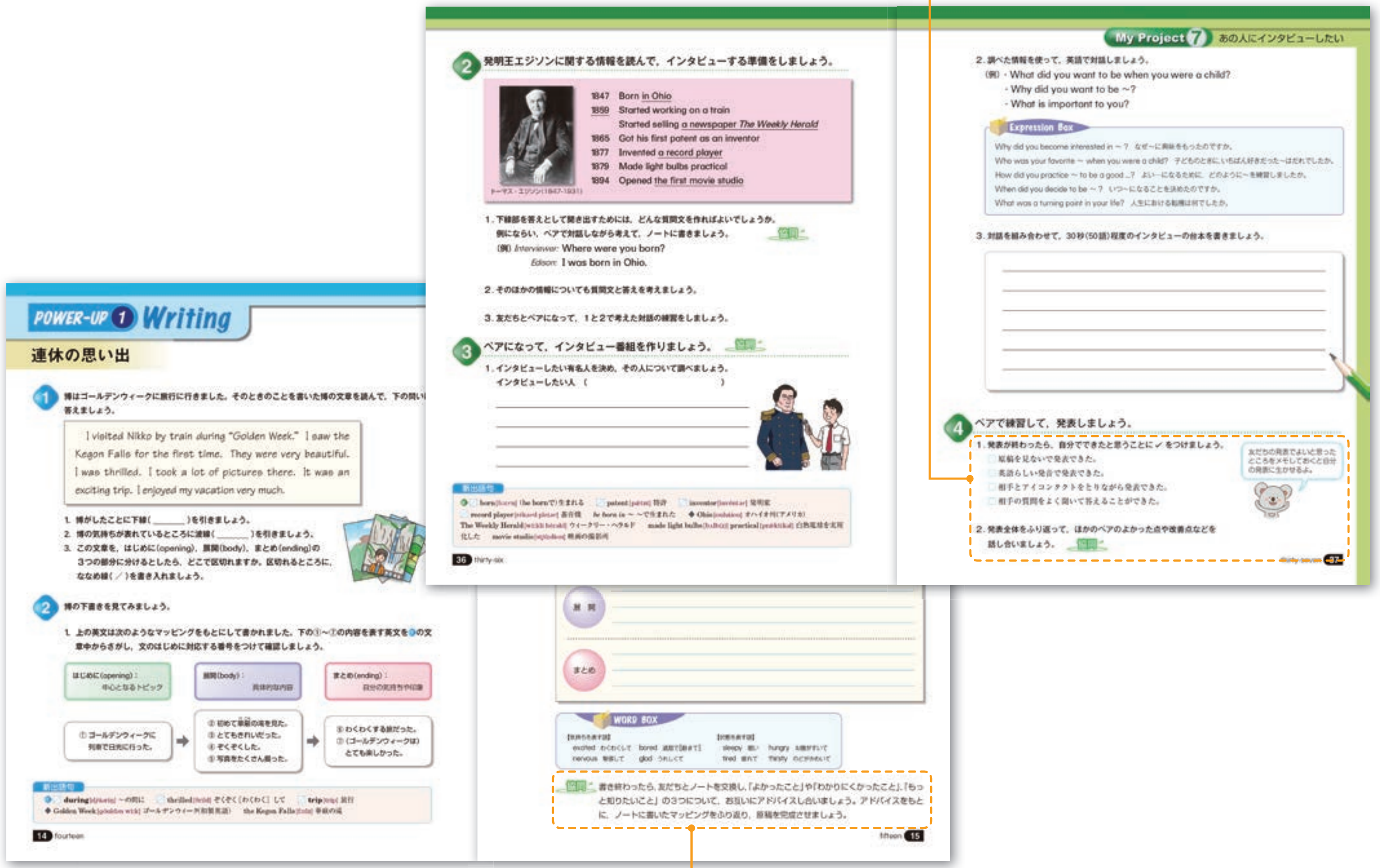
音読がリスニングやライティングにもよい影響が出る研究結果が報告されています。音読の重要性に着目し，本文ページには**音読マーク**を設け，家庭学習を促しています。

●学び合い，高め合う，「協働学習」を意識的に取り入れました。
また，My Projectにはふり返り，自己評価ができるようにしました。

1．発表が終わったら，自分でできたと思うことに ✓ をつけましょう。
- □ 原稿を見ないで発表できた。
- □ 英語らしい発音で発表できた。
- □ 相手とアイコンタクトをとりながら発表できた。
- □ 相手の質問をよく聞いて答えることができた。

友だちの発表でよいと思ったところをメモしておくと自分の発表に生かせるよ。

2．発表全体をふり返って，ほかのペアのよかった点や改善点などを話し合いましょう。 協同



協同 書き終わったら，友だちとノートを交換し，「よかったこと」や「わかりにくかったこと」，「もっと知りたいこと」の3つについて，お互いにアドバイスし合いましょう。アドバイスをもとに，ノートに書いたマッピングをふり返り，原稿を完成させましょう。

ココに注目!!

小学校外国語活動とスムーズに接続する入門期

- 小学校外国語活動からスムーズに中学校の英語学習に入れるように，**Let’s Start**を設けました。
- 他の教科書では本課に入る前に置いている**「アルファベット」を正課(Program 1)に**位置づけました。
- **1年の1学期**は，小学校外国語活動で馴染んできた**1人称，2人称の表現を中心に展開**しています。

小学校外国語活動の成果が確認しやすいよう，**ふきだしを空欄**にして，自由な発話をうながすようにしました。

Let’s Startの内容

①新しい友だちをつくろう
②町の中の会話を聞こう
③身の回りにあるものの英語
④英語を聞いてみよう・使ってみよう

PROGRAM 1の内容

①アルファベットになれよう
②アルファベットが表す音を聞いてみよう
③アルファベットを書こう

フォニックスの基本を取り入れました。文字と音の関係の「気づき」をうながします。

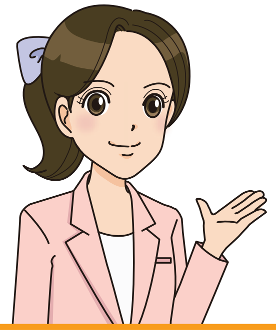
小学校外国語活動との連携のため，TPRを取り入れました。

小学校のときに音声でふれた単語は青字で示しました。

教科書にそのまま書き込める**4線付きの練習ページ**を設けました。

ココに注目!!

4技能の統合を実現するPOWER-UPとMy project



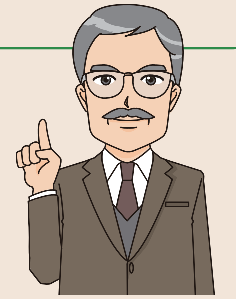
● Program(通常課)での総合的な学習に加え,POWER-UPシリーズでは**「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を個別集中的に育成**します。

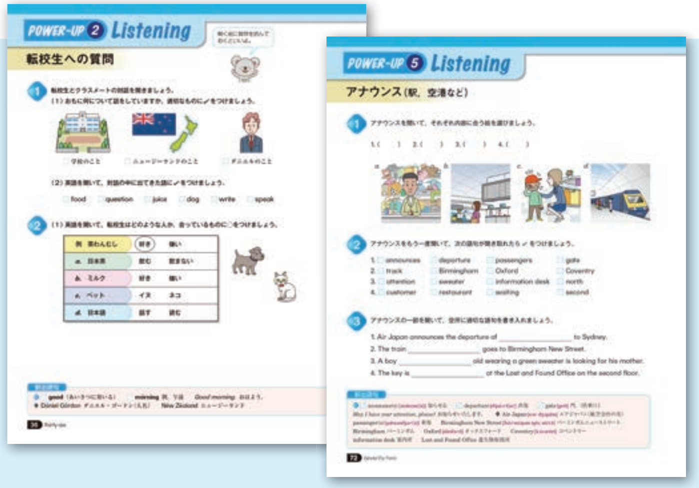
● 各技能の習得に特化したPOWER-UPと,それらの技能を有機的に統合するMY PROJECT(*内容案内での該当ノンブル入る)によって,**4技能を統合的に活用できるコミュニケーション能力を育成**します。

改訂のポイント

・練習だけでなく,「出力」「ふり返り」が十分にできるように改訂しました。

・*SUNSHINE*の中核をなすMy Projectでは,学習プロセスがより明確になるように,My Projectの手順を細分化しました。





聞く 概要から細部へと段階を追って深く聞き取れるようにしました。

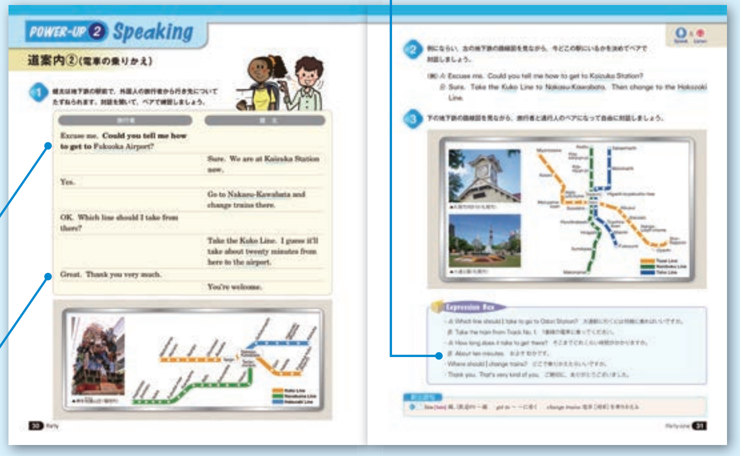
「転校生への質問」(1年),「天気予報」(2年),「音楽家へのインタビュー」(3年)など,自然な場面,聞きとる必然性のある場面を設定しました。

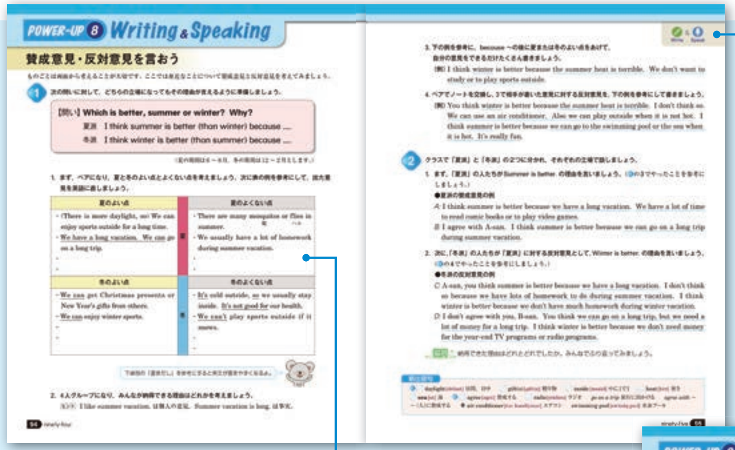
コミュニケーション活動に役立つ参考表現を取り上げました。

話す 「道案内」,「電話」,「買い物」のような日常的な場面は複数学年で取扱い,繰り返し学習できるようにしました。

場面特有の重要表現を太字でわかりやすく示しました。

活動が行いやすいように対話のセリフを左右に分けました。

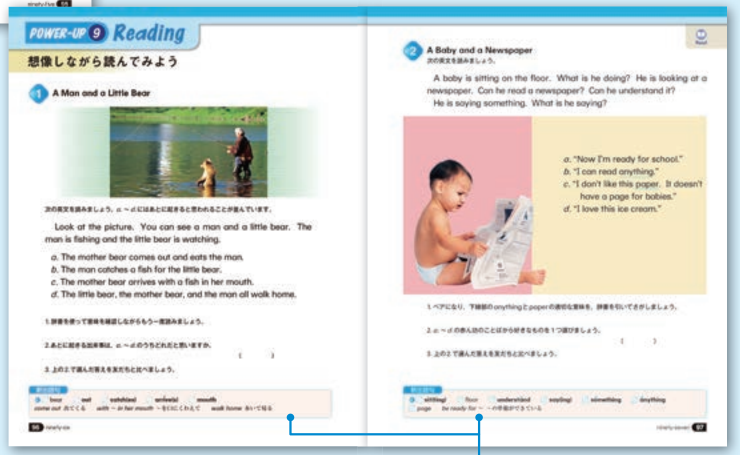




書く モデルで文章の構成を丁寧に分析・理解し,マッピングを使って構想を練り,原稿を書く,などのスモールステップを積み重ね,文と文とのつながりに注意しながらまとまりのある文章を書いていく構成です。

学年を追うごとに4技能の統合的な活動ができるように構成しました。

「日記」(1年),「賛成意見・反対意見を言おう」(2年)など,自分の気持ちや考えを表現する力を育成します。



読む 対話文が中心の1年では,まとまりのある文章を読む機会を保証するため,Readingとは別にPOWER-UP Readingを2か所設置しました。2,3年では本課としてReadingを各2課設けました。

Readingの課にも辞書指導の要素を入れました。

POWER-UP 主な内容

	1年	2年	3年
Writing	日記	連休の思い出	お祝い・お礼メール
Listening	ラジオ放送	観光ガイドの説明を聞きとろう	アナウンス
Speaking	持ち主をたずねる	道案内	電話

My Project

●自身の意見や考えを述べるなど創造性を発揮しながら各ProgramやPOWER-UPシリーズでの学習内容を活用することができます。

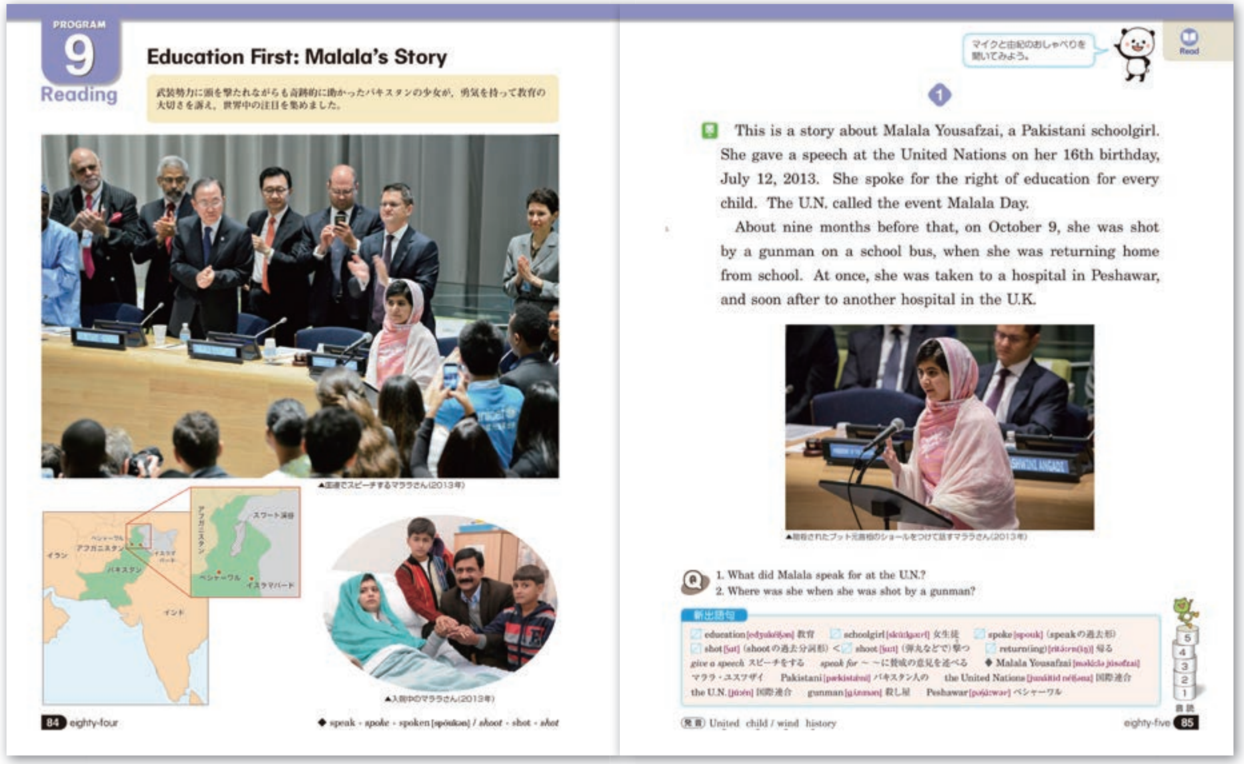
●My Projectでの活動に必要な技能は,各Programに戻り,ふり返りができます。

生徒が「自分の立場で考えられる」題材

- 中学生に自分たちの立場で考えてもらいたい**今日的な課題をテーマに**，題材を厳選しました。
- 人権，教育，平和，環境問題など豊富な題材で，**国際社会を生きぬく力**を育てます。

Education First: Malala's Story

3年 Program 9


PROGRAM 9 Reading

Education First: Malala's Story

This is a story about Malala Yousafzai, a Pakistani schoolgirl. She gave a speech at the United Nations on her 16th birthday, July 12, 2013. She spoke for the right of education for every child. The U.N. called the event Malala Day.

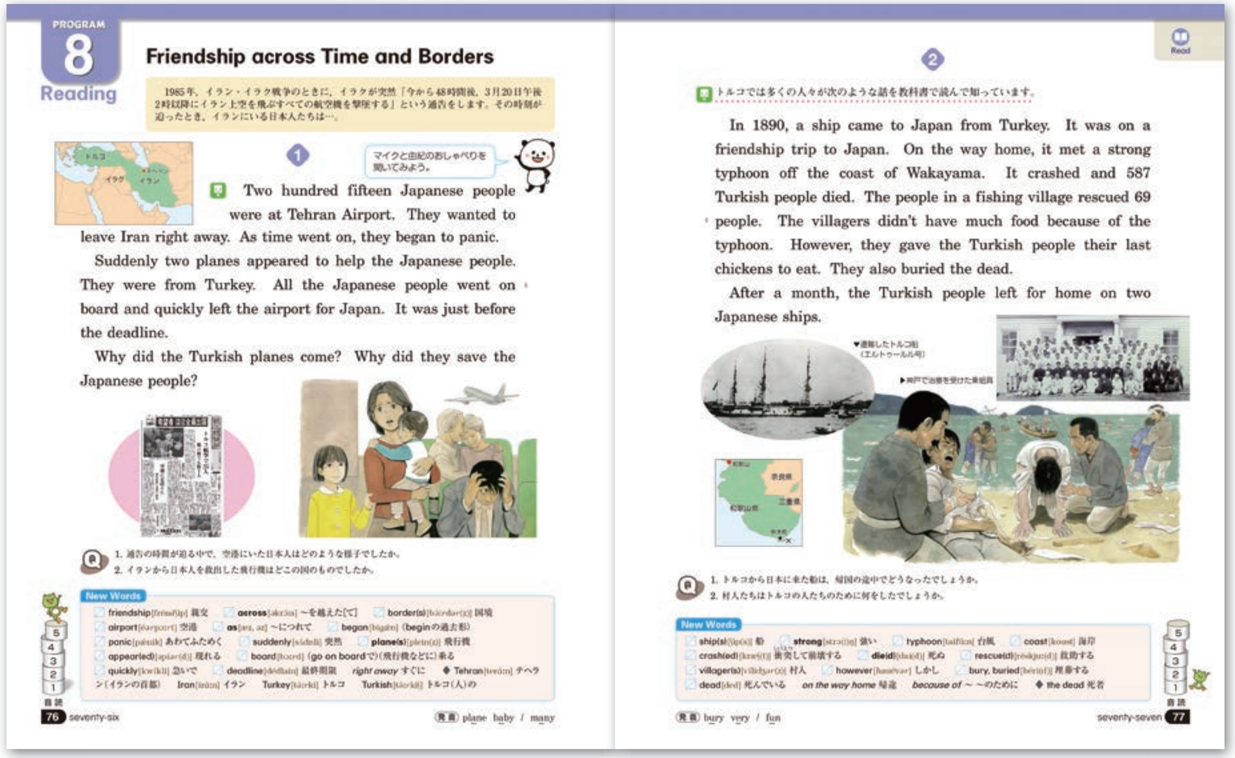
About nine months before that, on October 9, she was shot by a gunman on a school bus, when she was returning home from school. At once, she was taken to a hospital in Peshawar, and soon after to another hospital in the U.K.

1. What did Malala speak for at the U.N.?
2. Where was she when she was shot by a gunman?

社会情勢の混乱が続くパキスタンで，一人の少女が女性や子どもの教育の権利を訴えて立ち上がりました。のちに国連で演説し，世界じゅうから注目を集めることになった彼女の経験と思いとは，どのようなものだったのでしょうか。

Friendship across Time and Borders

2年 Program 8


PROGRAM 8 Reading

Friendship across Time and Borders

Two hundred fifteen Japanese people were at Tehran Airport. They wanted to leave Iran right away. As time went on, they began to panic.

Suddenly two planes appeared to help the Japanese people. They were from Turkey. All the Japanese people went on board and quickly left the airport for Japan. It was just before the deadline.

Why did the Turkish planes come? Why did they save the Japanese people?

In 1890, a ship came to Japan from Turkey. It was on a friendship trip to Japan. On the way home, it met a strong typhoon off the coast of Wakayama. It crashed and 587 Turkish people died. The people in a fishing village rescued 69 people. The villagers didn't have much food because of the typhoon. However, they gave the Turkish people their last chickens to eat. They also buried the dead.

After a month, the Turkish people left for home on two Japanese ships.

長い間，友好関係にある日本とトルコ。両国の絆を強めるきっかけとなった歴史的背景に着目し，よりよい世界を築くために助け合いの大切さを学び，他者や社会の危機に際してどのように行動すべきかを考えます。

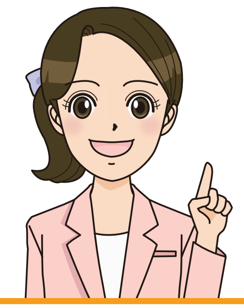
What Can We Do for Others?

2年 Program 3

©国連WFP協会

貧困問題など，助けを必要としている人々に私たちはどのような手助けができるのでしょうか。チャリティーイベントをテーマに，社会のために自分たちには何ができるのかを中学生の立場で考えます。

環境問題・異文化相互理解



- 現代に生きる世界の一員として避けては通れない環境問題・異文化相互理解をテーマに，「地球市民」を育成するための題材を揃えました。
- 英語学習だけにとどまらない，教科横断的な学習の広がりにも配慮しました。

リサイクル活動

1年 Program 4

リサイクル活動の重要さを理解し，環境保護の意識を高める環境教育としての広がりをもった題材です。

国際フードフェスティバル

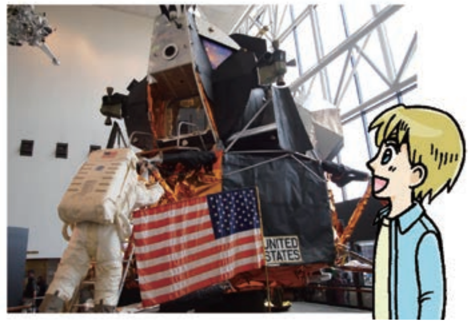
1年 Program 5

「所変われば品変わる」。外国のいろいろな料理を通して，異文化理解を促します。

Mike's Visit to Washington, D.C.

1年 Program 10

アメリカ合衆国の首都ワシントンD.C.にあるさまざまな文化施設を紹介しながら，生徒の知的好奇心を喚起します。他教科（社会科）との接続も可能な題材です。



If You Wish to See a Change

2年 Program 7

幼いころから環境問題に関心をもち，活動を続けてきたセヴァン・カリス＝スズキさん。彼女の環境や貧困の問題にかける思いを知ることで，これらの問題への意識を高め，地球の将来に「変化」をもたらすことの重要性について学びます。

So Many Countries, So Many Customs

2年 Program 10

外国を訪れた際に，多くの人々が自国との文化の違いに戸惑います。外国での生活でありがちな文化間のギャップをテーマに，異文化相互理解の大切さを学びます。

The 5 Rs to Save the Earth

3年 Program 3

Takeshi: Look at the mountain of garbage!
Lisa: What a waste! You can still use this chair.
Takeshi: That's for sure. We should do something about it.
Lisa: Yes. It's important for us to reduce the amount of waste.
Takeshi: Right! We need to reuse things more. We throw away many things, but we can still use some of them.
Lisa: In my country, we reuse many things.
Takeshi: Is that right? We can also recycle things like newspapers or cans.
Lisa: Well, those are the 3 Rs: reduce, reuse, and recycle.

garbage
waste
chair
reduce
reuse
recycle
can(s)
What a waste!
That's for sure.

環境問題の解決のために，私たちはどんな活動ができるのでしょうか。日常生活の中で実行できる5つの"R"を取り上げ，環境問題への関心と環境保全活動の必要性への意識と参加意欲を高めます。

Clean Energy Sources

3年 Program 8

今日，世界各国において風力や太陽エネルギーなどクリーンエネルギーの技術革新が進んでいます。代替エネルギーをテーマに，環境問題だけではない教科を超えた学習を促します。

日本を知り，日本文化を発信する

● 異文化相互理解となる**日本文化を発信していく態度を培う**のにふさわしい題材を，学年が進行するにつれて増やしました。文化を尊重する態度を養います。
● 英語を用いて**日本文化を発信する活動**へとつなげることができます。

Origami

1年 Program 8

日本の代表的な文化である折り紙は海外にもたくさんの愛好家がいます。今や世界の共通語となった「オリガミ」を題材に，英語でのコミュニケーションの輪を広げます。

Ms. Wood: Excuse me. I like your paper bird.
It's very beautiful.
A Japanese woman: Thank you.
It's an *origami* crane.
Ms. Wood: How do you make it?
A Japanese woman: I fold a piece of paper many times.
Ms. Wood: Wow! Please make one for me.
A Japanese woman: OK.

She is still my *origami* teacher.
Now I can make many things.

Eigo Rakugo

2年 Reading

現在，日本の古典芸能である落語が世界じゅうで注目を集めています。英語でどのように落語のおもしろさを伝えるのか，落語のおもしろさとはどのようなものか。学習後に生徒が実演してみたくなる題材です。

Yui — To Share Is to Live

2年 Program 11

岐阜県の白川郷で受け継がれている「結」を通して，支えあいの精神について学び，豊かな心を育てます。自分自身の地域に残る伝統文化について考え，社会科など他教科への広がりにも配慮しました。

Sushi-Go-Around in the World

3年 Program 5

世界遺産として認定された「和食」。特に人気の高いすしに注目し，日本食が現在のような人気をもつに至った背景をたどります。

Let's Talk about Japanese Things

3年 Program 6

日本の伝統文化について，さらに学びを深めていきます。鳥獣人物戯画やけん玉などをテーマに，日本文化を外国人にも説明できる実践的なコミュニケーション能力を育成します。

生徒の豊かな心を育てる題材

●教科書全体を通して，生徒の豊かな心を育てる多様なテーマの題材を配置しています。

由紀の イギリス旅行

1年 Program 6

由紀は夏休みにロンドンにあるシャーロック・ホームズ博物館を訪れます。

What Is the Most Important Thing to You?

3年 Program 7

「あなたの一番大切なものは?」というテーマで絵を描いてもらう「お絵描きイベント」。各国の子どもが描いた絵を通して、その国についての知識を深めます。

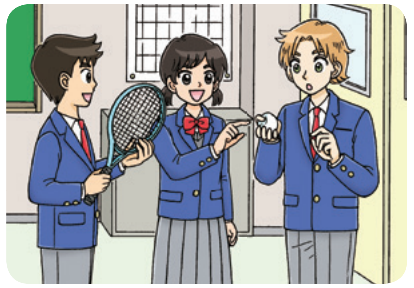
Did You Enjoy Your Vacation?

2年 Program 1

ALTのウッド先生が春休みに訪れた京都で体験したことを語ります。

A Video Project

2年 Program 9



異文化理解

海外に送る学校紹介ビデオを作るなかで，日本独特のスポーツや行事に気づきます。

知的好奇心

The Wonderful Ocean

1年 Program 7

由紀とマイクはシャチウォッチングに参加し，シャチの生態を学びます。

A History of Vegetables

3年 Program 1

身近な野菜であるジャガイモやキュウリなどのルーツを学びます。生徒たちの知的好奇心をくすぐります。

心を打つ題材

Faithful Elephants

3年 Program 4

戦時下の東京で殺処分が決まった動物園の象たちの物語を通して，命の大切さを考えます。

Her Dream Came True.

2年 Program 12

ある少女は父親が果たせなかった夢を叶える方法を思いつきました。そこから意外な交流の輪が広がります。

A Work Experience Program

2年 Program 6

キャリア教育

職業体験でいろいろな職業に挑戦します。体験を通して，将来について考えます。

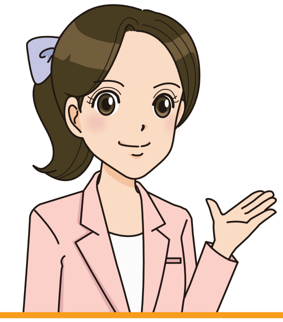
Volcanoes in Japan

3年 Program 2

郷土理解

鹿児島の桜島，浅間山，富士山など，日本国内の火山について学び，郷土の自然についての理解を深めます。

充実の辞書指導，語彙指導

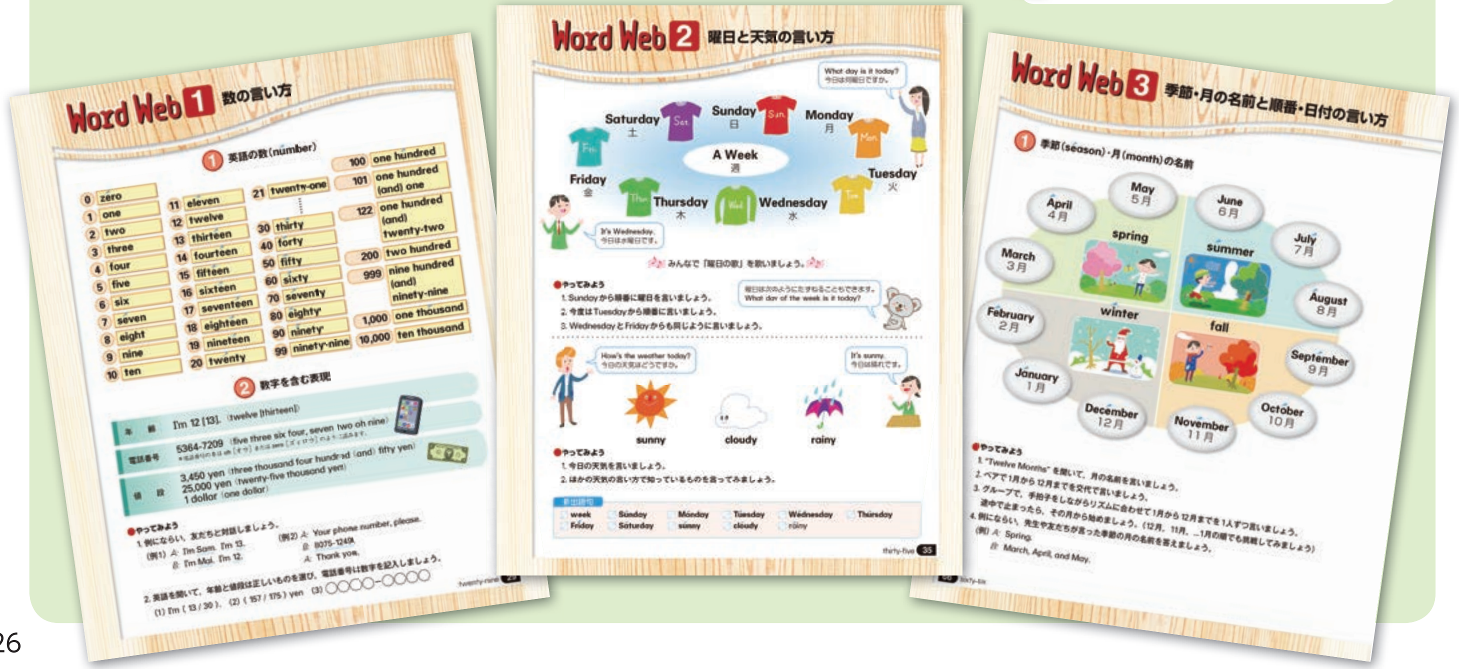


● **辞書指導のページを各学年のレベルに応じて設けました。**本文ページの傍注にも，辞書の活用を促すためのコラムが設けられています。

● 1年では，「数」，「序数」，「曜日」，「月」などの重要な語を，**Word Webコーナー**にまとめました。いつでもふり返ることができ，これらの基本的な単語の確実な定着を図ることができます。

本文の学習中にも辞書指導ができます!

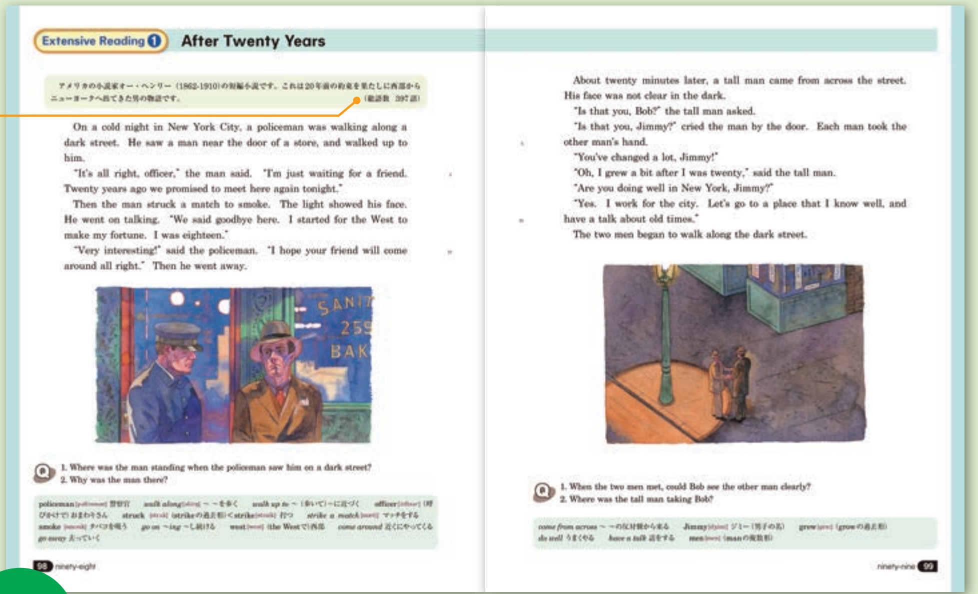
10行目のhotの意味を辞書で調べましょう。



高校入試を意識した多読用教材

● 2，3年の巻末資料として多読用の**Extensive Readingを収録**しました。3年には，高校入試の長文問題に十分耐えられる分量の読み物（400語程度の英文2編，650語程度の英文1編の計3編）を配し，**長文の速読力や読解力が要求される入試対策の補強を**はかりました。

総語数を示しました。時間を限って読ませるなどの工夫をしていただけます。



After Twenty Years

（総語数397語）

オー・ヘンリーの短編小説を原作とする，大人の「苦い」友情の物語です。

3年

Mother Teresa

（総語数408語）

ノーベル平和賞を受賞したマザー・テレサの功績について学びます。

The Hat

（総語数657語）

ギリシャでなくした帽子がアメリカまで「旅行」して，主人公とともに数奇な運命をたどります。

2年

Maria Talks about Her Life.

（総語数344語）

ナチスが台頭する時代を背景として描かれた映画*The Sound of Music*に登場する，オーストリアのトラップ大佐一家の波乱に富んだ物語を，主役のモデルであるマリアが語ります。

コミュニケーション活動を活発にする豊富な巻末資料

●各学年とも本文学習と有機的に関連づけた豊富な巻末資料が用意され，**言語活動を豊かに，活発にするための配慮**がされています。

●**「Basic Dialogのまとめ」，「英語のつづり字と発音」，「英語の歌」，「単語と熟語」**は全学年に，そのほか「クイックQ&A」，「いろいろな職業」，「不規則動詞活用表」などを必要に応じて収録しました。

Basic Dialogのまとめ

全学年

各セクションのBasic Dialogの英語の意味がわかるようになったか，英語を見ないで対話が言えるようになったか確認できるチェックボックスを設けました。

ペアで「英語→日本語」，「日本語→英語」の練習がしやすいようページの中央で分けました。

いろいろな前置詞

2年

英語のつづり字と発音

全学年

生徒が自分で単語を補充することにより，つづり字と発音の関係について自然に覚えられるようになります。

1年のみに収録していたものを，平成28年度版では全学年に収録しました。

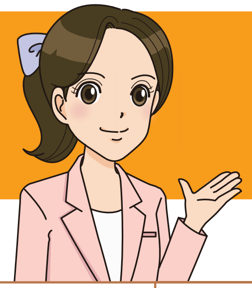
英語で料理

3年

アクションカード

1年

中学校でおさえておきたい基本動詞36語を厳選しました。入門期だけでなく，新言語材料の導入やInformation Gapを利用したコミュニケーション活動など，さまざまな場面で効果的な小道具として活用できます。



SUNSHINE　DATA

	1年		2年		3年		合計	
	24年	28年	24年	28年	24年	28年	24年	28年
ページ数								
本文ページ	128	**124**	120	**114**	110	**96**	358	**334**
付録ページ※1	32	**28**	40	**38**	50	**48**	122	**114**
課数								
課数	11	**11**	12	**12**	10	**9**	33	**32**
セクション数	31	**30**	36	**35**	33	**29**	100	**94**
基本文数	27	**26**	24	**25**	19	**19**	70	**70**
新出語数								
新出語数	521	**524**	384	**412**	292	**305**	1197	**1241**
題材語数	68	**48**	67	**83**	94	**112**	229	**243**
配当時数								
本文	62	**58**	66	**61**	57	**52**	185	**171**
Power-Up	14.5	**15**	19	**17**	19	**14**	52.5	**46**
My project	9	**12**	9	**12**	9	**14**	27	**38**
その他	7.5	**11**	5	**10**	5	**5**	17.5	**26**
合計	93	**96**	99	**100**	90	**85**	282	**281**

※1 付録ページ数は本文紙部分のみを数えています。前見返しと奥付以降の付録は除いています。

授業を支える圧倒的な指導資料・教材群

Teacher's Manual

協同授業案編
ALTとの打ち合わせに便利な，すべて英文による協同授業用教案例集

基礎徹底ワークシート
基本文を柱に基礎・基本を徹底的にトレーニングするためのワークシート

解説編
各課のねらいと到達目標，題材の背景や言語材料の解説，設問のねらいと解説，補充問題，指導資料収集用サイト紹介など

リーディング・ワークシート
各課の内容の要約読み物と長文読解用補充読み物集

テスト問題シート
—観点別評価テスト問題付き—
課ごとのテストと定期試験例

Teacher's Book
発音上や指導上の留意点，本文の状況解説，音声スクリプト，補充問題の解答などを載せた教師用教科書

コミュニケーション・ワークシート
基本文（Basic Dialog）を使ったコミュニケーション活動，ペアワークやゲームなどを収載

Teacher's CD
教科書に載せていない音声部分および指導書の各ワークシートの音声部分を収録

授業案編
モデル教案と技能別，活動別などの多彩な教案例集

スパイラル学習ワークシート
前課までの既習事項の確認をする反復学習用ワークシート

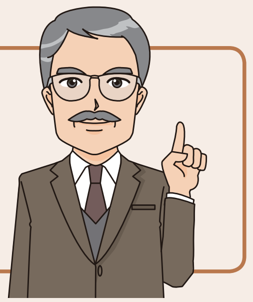
指導用教具（教師用）

- ピクチャーチャート
- フラッシュカード
- スクール版CD
- スクール版DVD
- 学校用デジタル教科書

学習用教材（生徒用）の予定

- ペンマンシップ
- 英語ノート
- ワークブック
- 基礎徹底ドリル
- 定期テスト対策問題集
- 英単語・熟語
- 教科書ガイド
- リスニングCD
- デジタル教科書ガイド クリックオン
- サンシャイン英和辞典

選定のチェックポイント



A 内容

1 全体的特長

1. 自ら学ぼうとする態度を育てるために，生徒には授業・学習の手順が見てわかりやすい，指導者には教えやすい構成になっています。
2. 4技能の総合的育成を目指し，バランスのとれた教材配列とし，「コミュニケーション能力の基礎」が多面的に育成できる構成になっています。
3. 到達目標としてのパフォーマンス活動を各学年に3か所配置し，明確な目標をもって学習が進められる構成になっています。
4. 「グローバルな視野をもった日本人＝地球市民」を育てるために，視野を世界に広げ，豊かな感性を育む題材が選定されています。
5. 小学校外国語活動で慣れ親しんできた音声を文字に結びつけ，中学校でのコミュニケーション活動へスムーズに接続されるように工夫されています。
6. 3年間を見すえた「Can-Doリスト」，学び合い，高め合う「協働学習」，ふり返りの「自己評価項目」など，今日的課題への対応が積極的に取り入れられ，創意工夫が十分なされています。

2 個別的特長

(1) 言語材料

■ **音声：** 語の音素の識別，対比，リズム，音調，発音とつづり字の関係などが各セクションの欄外下にあり，イントネーション，強勢，区切りなどについては各学年に3～5か所設けたコラムの中で丁寧かつ系統的に示されています。

■ **語彙：** 語彙，連語は運用度の高い基本的なものから導入されています。単語にはチェック欄がついており，自己学習を促す工夫がされています。

■ **文・文構造・文法事項：** 単文から重文・複文へ，具体的内容の文から抽象的内容の文へと配列されており，適切で教えやすい構成になっています。文構造・文法事項は1年で26，2年で25，3年で19となっていて，「コミュニケーション能力の基礎」を育成しやすいように対話文で提示され，項目は易から難へと適切に配列されています。

(2) 言語活動

■ 通常課の1セクションの活動は見開き2ページで4技能を基礎から総合的に育成できるように配置され，自己表現活動の課題（Task）を中心に設定し，自らコミュニケーションを図ろうとする意欲・態度を培うようになっています。

■ 本課とは別に4技能それぞれの技能に特化したページが設けられており，単独の技能から複数の技能へと4技能を統合的に活用できるコミュニケーション能力を育成できるようになっています。また，学習指導要領に例示された「道案内」「電話」「買い物」などの言語の使用場面・働きが各学年に効果的に配置されており，実践的な英語を運用できるよう，多様な言語活動が設定されています。

■ 学年ごとの到達目標を設定し，各課で学んだ言語材料を活用したパフォーマンス活動（まとめの活動）を行うことにより，4技能の統合的な活動ができる全体構造になっています。

■ 「読む」活動を中心にする課が1年に1課，2年に3課，3年に2課配置されています。また巻末には多読用のリーディング教材（Extensive Reading）が2年で1編，3年で3編掲載されており，高校入試の長文問題にも対応できる配慮がなされています。

(3) 題材

■ 場面は日本から始まって広く世界に目を向けさせるように構成されており，国際理解を深め，国際協調の精神を養い，最終的には英語で自国の文化を発信できる力を養います。

■ 取り扱う国は英米に偏ることなく，オーストラリア，韓国，インド，フィンランド，トルコ，ツバル，ルーマニアなど広く世界の諸国をカバーしています。また，情報発信の観点から日本の伝統文化を紹介する題材も適切に配置されています。

■ 日常生活のみならず，環境，平和，人権，共生などの現代的課題を扱い，生徒に多様なものの見方や考え方について考えさせるすぐれた素材が選定されています。

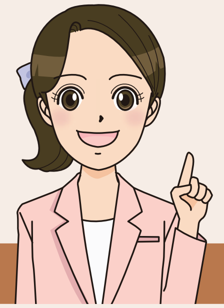
B 組織・配列と分量

1 組織・配列

通常課（PROGRAM）では基本対話文（Basic Dialog）とその基本練習が左ページに，活用的能力を養成するための内容のある本文が右ページに配置されて1セクションを構成し，全セクションを通じて4技能を総合的に扱うコミュニケーション活動ができるように組織されています。さらに，各課で学んだ言語材料を使った4技能の統合的な活動を行うページ（My Project）が年間3回設けられており，全体として英語の総合的・統合的な活動が学習事項を習得するシステムとして周到に組織されており，確実に学力の向上が図れる配列となっています。

2 分量

1年11課，2年12課，3年9課で構成され，全学年総授業時数の7割程度の配当時数となっており，3学年とも1年間で無理なく教えられる分量になっています。



C 表記と表現

1 表記

本文は適切な大きさの活字で表記されています。1年では大半が手書き文字と同じ書体が使われており，文字学習への細かな配慮がなされています。

2 表現

英語は現代の標準的な表現が使われています。各セクションの初めに学習のめあてが示されており，学習の要点がつかみやすくなっています。質，量ともに豊富な写真，挿し絵などは生徒の興味・関心を高め，理解を助け，深めるよう工夫してあります。

D 造本，体裁など

1. 造本は丁寧で堅牢です。環境に配慮した用紙やインキで印刷されています。
2. 印刷は鮮明で見やすく，大判で詰め込み感のない，ゆとりある紙面構成になっています。
3. 1年巻末資料のカードは切り取り用のミシン目が施され，丁寧な配慮がなされています。

E 学習指導要領への配慮について

1. 「聞く」「話す」「読む」「書く」ことなどのコミュニケーション活動が相互に有機的につながった構成となっており，コミュニケーション能力の基礎を養うという教科の目標を十分に満たしています。
2. 内容面で，言語活動がしやすく，言語材料は易から難へと適切に配列されています。
3. 教材は多面的かつ世界的な視野で取り上げられ，国際理解と国際協調の精神の育成に配慮されています。